

2万2000人構想

浜松新野球場

県、関係者から意見聴取へ

白紙で検討

県は遠州灘海浜公園篠原地区(浜松市西区)に整備する新野球場について、2019年度までの債務負担行為として基本計画策定費8千万円を補正予算案に盛り込み、3日開会の県議会12月定例会に提出する。基本構想で設定した「2万2千人程度」の観客収容人数にとられず、基本計画の策定過程で改めて野球場関係者らから意見聴取し、望ましい規模や形態を決定する方針だ。ただ、規模や形態を巡っては関係者にさまざまな意見があり、取りまとめには曲折も予想される。

川勝平太知事は11月19日の

定例記者会見で、球場の規模について「やがてプロがプレーできるような球場が条件の一つになる。2万2千人は譲れない」と強調。プロ球団の誘致にも意欲を示した。

規模を決めているかのよう

に受け取れる川勝知事の発言に対し、最大派の自民改革会議から反発の声が上がり、県の担当者は同22日の会派への説明で「規模、形態は利用方法に応じてさまざまなタイプが考えられる」と「釈明」した。野球協議会参加団体などの関係者に意見聴取して規模や形態を定め、計画策定の各段階で県議会に説明の機会

を設けるなどとして理解を求めた。

当初は20年東京五輪・パラリンピックまでの完成を視野に入れていたが、6年半後から9年後と幅を持たせて完成時期を提示。基本計画の策定には来春から1年、あるいは1年半かけるとしている。

県議会は16年2月定例会で

関連経費を減額修正した経緯があるが、こうした県の説明や、浜松市と市議会が建設推進を要望したことを踏まえ、今回は容認する方向だ。ただ、自民県議の1人は「建設に反対はしないが、どんな球場で、どのくらいというわけではない」とくぎを刺す。

一方、浜松市の野球場関係者

らの市民団体は青少年の育成を主目的にした中小規模の球場3面が隣接する球場の整備を求めている。要望のため27日に難波喬司副知事を訪ねた市民団体の太田誠共同代表(82)は「2万2千人の大型球場はニーズが低く、採算性などに問題がある」と訴えた。

(政治部・宮嶋尚顕)

